

美術	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	新学習指導要領に向けて	評価(◎○△)
1年	<p>【対象を観察し絵に表現する】 ○人物クローキータッチを通して、正しい人体の比率で対象を描きとれるようにする。 【平面デザイン】 ○レタリングや平塗りの技術を学び、美しく表現できるようにする。 【鑑賞】 ○自他の作品を鑑賞し、良さや改善点に気付くようにする。</p>	<p>【繰り返しによる定着】 ○短時間のスケッチを毎回の授業で繰り返すことで上達を図る。 【上達の実感をもたせる】 ○以前と比べどんな変化があったかを具体的に示し気付かせる。 【実物投影機の活用】 ○実物投影機を活用し、作業の様子を示し理解を深めた上で作業をさせる。 【他者の作品から学ぶ】 ○自分の目指すイメージに近づけるためにはどのような表現が必要か、他者の作品を鑑賞することで気付かせる。</p>	<p>【学びに向かう力】 ○理解して取り組み、繰り返すことで自己の向上を実感し、学びに向かう力を高める。 【言語活動の充実】 ○平面デザインの構想を練り、幾つかのアイデアから工夫したものを教師に伝え、採用するものを決定する。 ○自己の作品や制作を振り返り、ワークシートにまとめることで、これからの作品作りに生かす。</p>	
2年	<p>【安全な道具の使用】 ○木工やすりや彫刻刀の正しい使い方を身に付ける。 【用途を考えたデザイン】 ○用途を考え形や装飾を考えられるようにする。 【鑑賞】 ○他者の作品を鑑賞し、自分の作品に生かせるようにする。</p>	<p>【練習の実施】 ○実物投影機を活用し、作業の様子を示し理解を深めた上で、制作に入る前に練習時間を設ける。 ○机間指導による正しい道具の使い方の徹底。 【不適切なデザインの例示】 ○用途を考えた上で、適切でないデザインを具体的に例示し、デザイン案から制作まで、念頭に置いて取り組ませる。 【他者の作品から学ぶ】 ○先輩の作品を鑑賞することで制作のイメージをもち、作品制作の参考にさせる。</p>	<p>【デザインや工芸の表現における発想や構想に関する資質・能力の育成】 ○使う目的や条件などを考えた発想や構想の力を養う。 【鑑賞】 ○生活の中の美術の働きについて意識させる。 【言語活動の充実】 ○先輩の作品を鑑賞し、作者の意図や作品の良さを感じ、文章にまとめることで作品制作に生かせるようにする。</p>	
3年	<p>【表現の特性】 ○スクラッチ制作特有の通常のデッサンとは異なる表現について理解できるようにする。 【ハッチングや点描による表現】 ○ハッチングや点描による明暗で、モチーフに合わせた表現ができるようにする。 【完成を意識した制作】 ○自分の制作イメージを実現するために必要な作業を考えることができるようにする。</p>	<p>【練習の実施】 ○スクラッチ板の構造や制作の特性を説明に加え、黒い画用紙に白い鉛筆で描く練習をすることで制作のシミュレーションをする。 ○白い鉛筆でハッチングをすることで陰影の付け方を体験する。 【彩色後のイメージ】 ○スクラッチ終了後に彩色をした時のイメージを常にもたせ、完成時に求める作品にするために必要な作業を考えさせる。</p>	<p>【意図に応じて創意工夫し表す技能】 ○どのような表現があるのか、どのように表現するのかについて知識を深め、制作のイメージにつなげ、創意工夫し表現できるようにする。</p>	